

謹賀新年

年頭ののごあいさつ

美祿市長 村田 弘司



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素から、市政推進に対し多大なご理解とご支援を賜っておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、マグニチュード9.0という巨大地震により東北地方の沿岸部を中心に東日本に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災、紀伊半島に甚大な被害をもたらした台風12号、リビアの独裁体制崩壊に代表されるアラブ諸国の民主化のうねり、ギリシャなどの財政危機が引き金となったユーロ危機による世界経済の不振、タイの大洪水に伴うサプライチェーン（供給連鎖）の寸断による国内メーカーへの打撃、歴史的な円高・株価低迷、TPP参加をめぐる国内の不協和音など、まさに激動の年であったと感じております。

また、国民の安全・安心が脅かされた一年でもあったと感じ

年度豪雨災害にかかる農林施設、土木施設の災害復旧事業のほか、防災・防犯に関する情報を発信する安全・安心メールシステムの整備など災害に強いまちづくりに取り組みました。

また、地域公共交通の根幹でありますJR美祿線の利用を促進するため、沿線の長門市、山陽小野田市の行政・各種団体で組織する利用促進協議会が中心になって、平成25年度に年間10万人の利用拡大を目標に、市民乗車体験事業など10項目38の取組を運転再開以降進めているところです。JR美祿線を利用する方が増えることは、まちのにぎわい創出につながると考えておりますので、市民の皆様の積極的なご利用をお願いいたします。

「観光交流の促進」の取り組みといたしましては、4月に秋芳洞の洞内全照明を環境にやさしいLEDに、黒谷隧道を光と音が奏でるデジタルアートによる3億年の歴史を遡るタイムトンネルへとリニューアルオープンし、さらなる魅力アップを図りました。これを全国に、全世界に発信し、さらなる観光客の増加を図りたいと考えております。情報発信につきま

しては、市民の皆様にもご協力をお願いいたします。

また、11月には台湾を友好訪問し、中部に位置する南投県と相互の交流の推進を確認する協定を締結いたしました。今後、国内外に向けてトップセールスを積極的にを行い、国内はもとより中国・台湾・韓国など東アジアを中心とした外国からの観光客の増大に努めて参ります。

「産業の振興」の取り組みといたしましては、行政・事業者・事業団体・市民が一体となって地域の特性を踏まえた産業の振興を図るため、産業振興条例を制定いたしました。

また、元気にぎわう市街地・商店街を取り戻すため、拠点市街地活性化事業や美祿あきない活性化応援事業を創設いたしました。

なお、美祿社会復帰促進センターの定員が1,000人から1,300人に増員され、これに伴い職員も増員されることとなりますので、さらなる経済効果が期待されるようになります。

「ひとの育成」の取り組みといたしましては、秋に団体の自転車競技、軟式野球、また、オープン競技のウォークを開催い

ております。

特に国難というべき東日本大震災は死者・行方不明者が2万人近くに達し、地震と津波による被害を受けた福島県の原子力発電所では、大量の放射性物質の放出を伴う重大な原子力事故に発展し、周辺一帯の住民は長期の避難を強いられ、おります。また、震災後しばらくは、東北地方や関東地方の被災した工場の操業停止により全国で国民経済、国民生活に大きな影響を及ぼしたことは、記憶に新しいところです。

そのなかで、サッカー女子日本代表などでジャパンのワールドカップ優勝は、国民に夢と希望と勇気を与えてくれた服の清涼剤とも言える明るいできごとでした。

本市においては、豪雨災害により二年以上運転を休止していたJR美祿線が9月26日に運転を再開し、再開日に美祿駅前盛大に記念式典を開催し、また、沿線でも多くの市民の皆様が力強い声援をいただきました。

また、10月26日には大阪の金属加工メーカーであるトーフ株式会社と進出協定書に調印いたしました。平成26年度から操業を開始され、当初50人、最終的に150人の雇用が予定されております。

これらは、混沌として、なお予断を許さない社会情勢の中で、本市の未来への希望の光を感じているところでもあります。

さて、昨年は、美祿市のまちづくりの指針であります第1次美祿市総合計画の10年間の計画期間の2年目に当たり、基本理念に向かって着実に前進した年であったと考えております。

第1次美祿市総合計画は、基本理念を「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祿市」とし、5つの基本目標「安全・安心の確保」「観光交流の促進」「産業の振興」「ひとの育成」「行財政運営の強化」を強力に推進することにより将来像の「自然と調和し、潤いと活力にみちたやすらぎと交流の郷」の実現を目指しております。

昨年の主な取り組みは次のとおりです。

「安全・安心の確保」の取り組みといたしましては、平成22年

たしましたが、ボランティア、花いっぱい運動、また、全国から来訪された方へのおもてなしなど、市民の皆様のご協力により大成功のうちに終了することができました。厚くお礼申し上げます。

また、大嶺中学校の校舎整備着手や学校施設の耐震診断など未来を担う子供たちが安全に、また、安心して教育が受けられる環境整備を進めております。

「行財政運営の強化」の取り組みといたしましては、小規模高齢化集落等の地域の課題を解決するため、地域の目指す将来像を地域全体で考え、実行することに対して支援を行うことと応援未来創造交付金事業を創設いたしました。

また、市長と語る未来創造まちづくり座談会をこれまで11公民館にて開催し、皆様の生の声を聞かせていただき、ふるさとに対する誇りと、ふるさとをどうにかして良くしたいという熱い思いをひしひしと感じることができました。今後皆様の声を的確に市政に反映させていきたいと考えております。なお、本年2月までに残りの2各公民館で実施する予定としております。

以上、総合計画の5つの基本目標に対する主な取り組みを申し述べましたが、「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祿市」実現に向けて、引き続き全力で取り組んで参る所存でありますので、市民の皆様にご支援を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

2012年は辰年、昇龍に象徴される躍進の年でありま

す。

私は今年のテーマを「スプリング美祿」としておりますが、「スプリング」の持つ意味である「躍進」「湧き出る泉」「春」「柔軟」といったイメージは今年的美祿市に、正に相応しいものであると確信しております。今年的美祿市も元気があります。ご期待ください。

本年が、市民の皆様におかれまして、健康で喜びに満ちあふれた年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。